



古代立石のいろいろ

▲① キャラニシの整列立石，環状列石から放射状にのびた数本の整列立石よりなる。(本文 128 頁参照)



② キャッスル・リグの環状列石，形はつぶれた円形の I 型である。(本文 129 頁第 3 図参照)



◀③ ストーン・ヘンジの立石の間からの冬至の日の出を見る。

④ 大湯町環状列石の野中堂遺跡の内環，手前のひし形にならんだ 4 本の立石は意味ありげである。右上部分に通称日時計が見える。



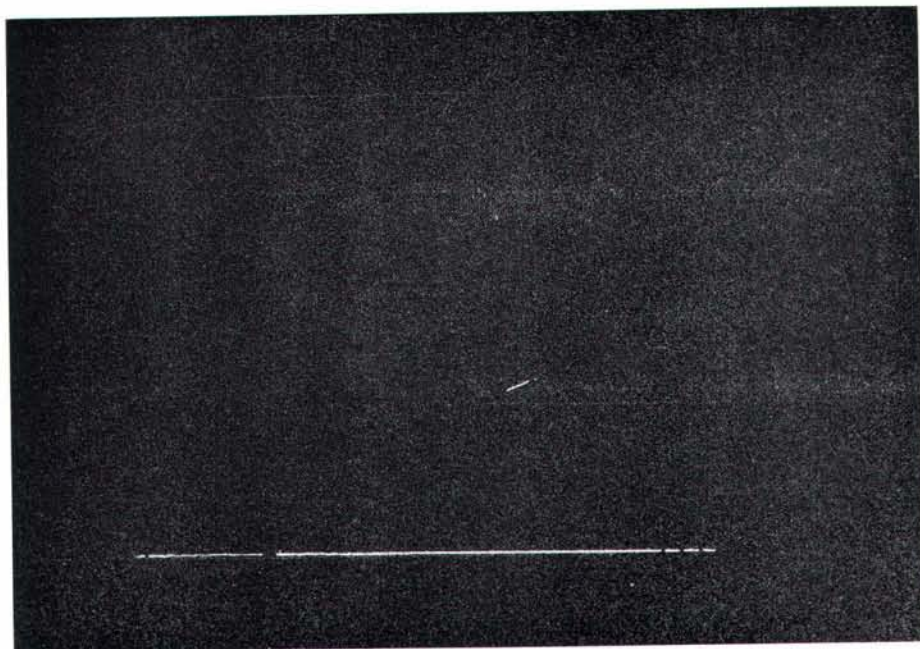


◀⑤ 小樽市地鎮山の環状列石、
11本の立石が環状になら
んでいる。

⑥ 北海道余市西崎山の立石、▶
西崎山には3群の立石が
あるが、その内の2群は
それぞれこのような菊花
形の立石が数個から10個
近くのグループよりなる。
この立石は大湯町の日時
計ににている。



◀⑦ 小樽市三笠山の環状列石、30×22 m、
楕円形で、立石のならばかたは密である。



⑧ M4S2 タンセイ打上球形ロケット，画面中央付近に斜めの線として写っている。1971年3月4日，堂平観測所のペーカー・ナン・シュミットカメラにて撮影。

⑨ 鳥羽彗星 (1971a) 画面中央付近にコマを持って写っている。1971年3月23日 $28^{\text{h}}17^{\text{m}}00^{\text{s}}$ から2分間露出で，堂平観測所の50cm彗星写真儀にて撮影。上が北，右が西。(139頁の雑報参照)

